

2021年度

第47回 北海道指定図書

●北海道の先生がおすすめる本を読んで、読書感想文を書こう！

北海道学校図書館協会

小学校低学年

メーカーによるコメント (e-honサイトorメーカーサイトより)
選定部によるコメント
ISBNコード

『**悲しみのゴリラ**』

ジャッキー・A・クレイマー/作
シンディ・ダービー/絵
落合 恵子/訳

クレヨンハウス 1,800円+税



ママを亡くした男の子。ゴリラが現れて、そっと寄り添います。「ママはどこにいったの?」「どうしてママはしんだの?」「いつになったらかなしくなくなるの?」男の子の問いかけに、ゴリラは一つひとつ、答えていきます。大切なひとを失う深い悲しみ。それを丸ごと、大きな腕で抱きしめる絵本です。

978-4-86101-387-4

『**かしたつもり
×もらったつもり**』

かさい まり/作
北村 裕花/絵

くもん出版 1,400円+税



大切な恐竜図鑑を、れんは、友だちのだいちに貸したつもりだった。だけど、だいちもらったつもりだった。勘違いの原因は、大きな工事現場の音。聞き間違い、勘違いからはじまる男子のけんかや仲直りの物語。こんなことってアルアルな状況。読者の子どもたちが、自分の気持ちも振り返って考えるきっかけになる絵本です。

978-4-7743-3077-8

『**氷上カーニバル**』

あべ 弘士/作

のら書店 1,600円+税



氷上カーニバルは、北海道札幌市で、大正時代の終わりから昭和にかけて行われていた冬のお祭りです。2月、札幌の人々は、雪に閉ざされた冬の終わりを祝うため、様々な手作りの衣装をして中島公園のスケートリンクでカーニバルをしました。このお祭りは、当時の子どもたちの心に深い感動を残したようで、児童文学作家の神沢利子さんによる作品『いないいないばあ』にも描かれています。人々の生きる喜びがあふれる、美しく楽しい夜の絵本。

978-4-905015-55-0

『**アルフィー
ゆくえふめいになったカメ**』

ティラ・ヒーダー/作
石津 ちひろ/訳

絵本塾出版 1,500円+税



ニアは、6歳の誕生日にカメのアルフィーと出会いました。ニアは、アルフィーがだいすきだけど、カメはいたずらもしないし、あまりにもおとなしくて、つつい、そこにいることさえ忘れてしまいます。そして、ニア7歳の誕生日のあさ、アルフィーは突然姿を消してしまいます!どこへいったの?そのわけは?知っているのは、アルフィーだけ…。

978-4-86484-168-9

小学校中学年

『**世界遺産知床の
自然と人とヒグマの暮らし**』

伊藤 彰浩/写真
伊藤 かおり/文

少年写真新聞社 1,600円+税



人前に姿を現すヒグマは、観光客を喜ばせる反面、地元の人々を不安にさせます。ヒグマと人の共生のための知恵を知床から伝えます

978-4-87981-711-2

『**AIロボット、
ひと月貸します!**』

木内 南緒/作
丸山 ゆき/絵

岩崎書店 1,200円+税



我が家にAIロボットがやってきた。名前はエイト。ぼくにそっくり。そしてほくよりうんと優秀!最初はいろんなことをやってもらえてうれしかったけど、だんだん不安になってきて…。涙と笑いの一か月が過ぎて、その日は来てしまった。心通うはずのないロボットとの確かな心の交流を描いた、胸が熱くなる作品。

978-4-265-07266-8

『しあわせなときの地図』

フラン・ヌニョ/文
スザンナ・セレイ/絵
宇野 和美/訳

ほるぷ出版 1,400円+税



生まれてからずっと、この町で暮らしてきたソエ。でも戦争のせいで、家族と逃げなければならなくなりました。町をでる前の晩、ソエはつくえに地図をひろげて、楽しいことがあった場所にしるしをつけてみました。すると…。戦争の悲しさ、理不尽さ、そして小さな希望が切々と描かれる、心に響く絵本。

978-4-593-10064-4

小学校高学年

『消えたレッサーパンダを追え！ 警視庁「生きもの係」事件簿』

たけたに ちほみ/文
西脇 せいご/絵

学研プラス 1,400円+税



警視庁には希少な生き物の密輸などを専門に捜査する係がある。警視庁生活安全部生活環境課にある係、通称「生きもの係」とよばれている部署だ。本書は、そんな「生きもの係」のエースである福原警部の携わった、生き物をめぐる事件捜査を中心に紹介するノンフィクション読み物だ。

ある夜、動物園からレッサーパンダが盗まれた！捜査にあたるのは、警視庁で生き物の密輸や違法売買を扱う「生きもの係」の福原警部。自然を深く愛する警部が出会った事件を中心に、人と生き物との付き合い方について考えるノンフィクション。

978-4-05-205234-7

『きみの声がききたくて』

オーウェン・コルファー/作
P・J・リンチ/絵
横山和江/訳

文研出版 1,400円+税



心に深い傷をおい、ほえることができなくなった子犬と、父親とはなれ、声を出すことをやめた少年。

「きみの声がききたい」。時間をかけて親友になったふたりは、たがいに同じことをねがい、そして—。

978-4-580-82421-8

『命のうた ぼくは路上で生きた十歳の戦争孤児』

竹内 早希子/著
石井 勉/絵

童心社 1,400円+税



10歳のときに神戸空襲で親をなくした山田清一郎さんの半生を中心に、一緒に路上で生きた戦争孤児の仲間たちの声なき声をすくい上げる、渾身のノンフィクション。

第二次世界大戦後、日本全国に12万人以上いた戦争孤児たちの声が、あなたには届いたのだろうか。どうして彼らは野良犬と呼ばれ、つらく悲しい体験をしなければならなかったのか。なぜ、大人たちは助けてくれなかったのか。戦後75年目に問う作品。

978-4-494-02067-6

中学校

『ドーナツの歩道橋』

升井 純子/著

ポプラ社 1,400円+税



新しい学校と友だち、介護が必要な家族のこと—高校一年生の麦菜の心ゆれる毎日のみずみずしく描く。「同級生にすすめたい本」と中・高校生が語る、現在のわたし、明日のわたしの物語。

麦菜はパン屋を営む両親と弟、祖母と暮らす高校一年生。介護が必要な祖母と家族との毎日に、心は「好き」「嫌い」に揺れ—。

978-4-591-16602-4

『イーブン』

村上 しいこ/作

小学館 1,400円+税



ちょっとだけ背中をおしてくれる物語

学校で友だちとケンカしたのをきっかけに登校できなくなった美桜里。祖母に連れられていった町内会の「手作り市」でカレーのキッチンカーを出していたおじさんと少年に出会う。ユニークな二人と、すっかり意気投合してカレー作りを手伝うことに。この二人も訳ありのようだ。

対人関係では、人との距離感がとても重要だが、いつでも“イーブン”でありたい、そのためにはどうしたらよいかを問う、少女たちの成長物語。

978-4-09-289301-6